

《薬局サーベイランスコメント》

『今週（第4週）、第5週は例年ならば流行のピークを迎えつつある時期だが、今シーズンはそれほど患者数は多くはないと予想される』

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanijyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2019/2020年シーズン）の2020年第3週（1月13日～1月19日）のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は約600,000となり、前週の値（第1週；約784,000）よりも減少しました（図1）。週明けの第4週の月曜日（2020年1月20日）の推定患者数は約144,000と第3週の休日明けの値（約162,000）よりも減少している一方で、インフルエンザの流行の中心となる5～14歳の年齢群の第3週の罹患率は上昇してきており、患者数は横ばい状態が続く可能性があります。

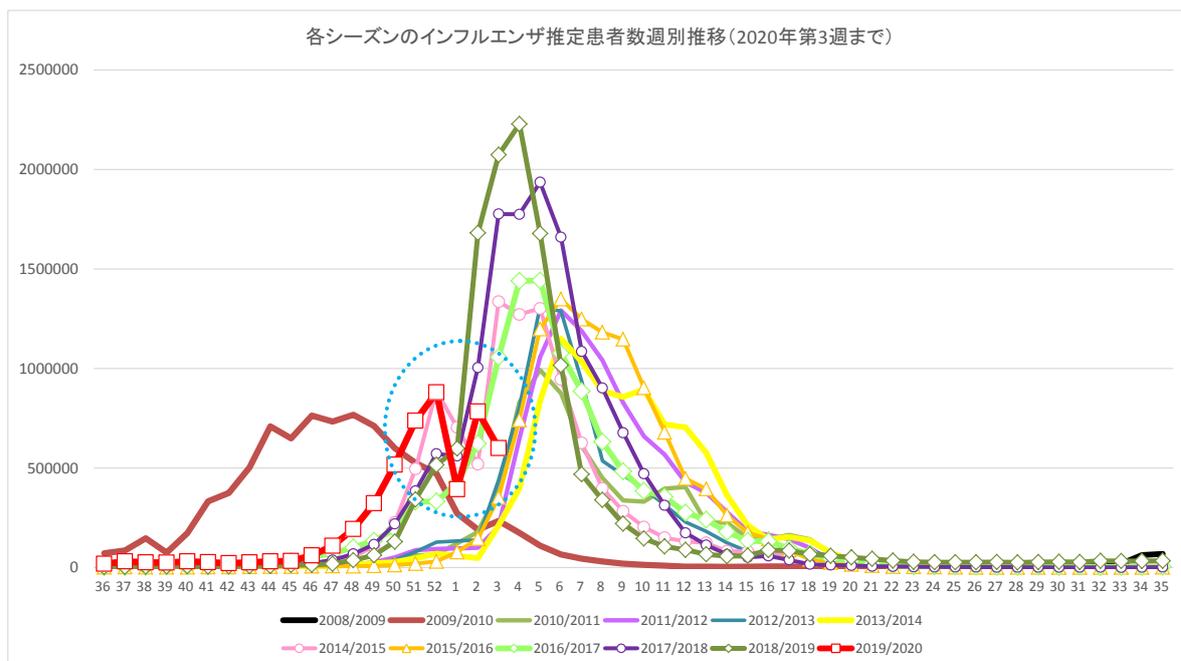


図1. 過去11シーズンと今シーズン（2019/2020年シーズン）の2019年第36週～2020年第3週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019年第36週から2020年第3週までの累積の推定患者数は約4,861,000であり、2019年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は3.85%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳（16.75%）、10～14歳（11.52%）、0～4歳（9.51%）、40～49歳（4.25%）、30～39歳（4.19%）、15～19歳（4.15%）、20～29歳（2.90%）、50～59歳（2.71%）の順となっています（図2）。

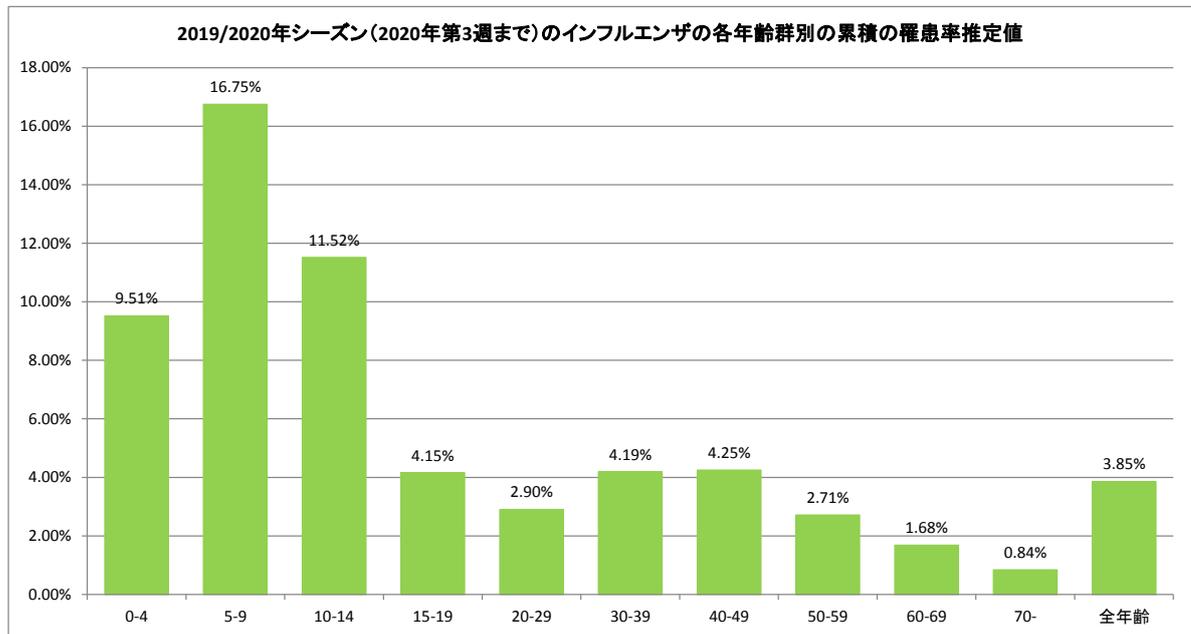


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2019 年第 36～2020 年第 4 週、累積推定患者数=約 4,861,000）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（2,039 検体解析）は、A/H1pdm が 94.1%と最多であり、次いで A/H3（A 香港）亜型 3.5%、B 型 2.4%の順となっています。

2020 年第 3 週のインフルエンザの推定患者数は前週よりも減少しました。今週（第 4 週）、第 5 週は例年であれば流行のピークを迎えつつある時期ですが、今シーズンはそれほど患者数は多くはならない可能性があります。しかしまだインフルエンザの流行は継続しており、今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。

2020 年 1 月 21 日
 済生会中津病院感染管理室
 安井 良則